

平成18年7月10日

阪神電気鉄道株式会社

阪神甲子園球場リニューアル工事の工期短縮について

阪神甲子園球場は、大正13(1924)年の開設以来、80年以上にわたり、全国の野球ファンの皆様に親しまれてきましたが、これまでの「歴史と伝統」を継承しながら、より安全・快適なスタジアムを目指して、全面的なリニューアル工事を、平成19(2007)年野球シーズン終了後から実施することとし、昨年11月7日に、「阪神甲子園球場リニューアル計画基本構想」を発表しました。

以後、様々な角度から、より効率的でお客様にご不便をお掛けしない工事の進め方を検討してきた結果、このほど工法の変更等により、**球場本体**のリニューアル工事の工期短縮を実現できることとなりました。

また、それに伴い、阪神甲子園球場の代名詞の一つでもある「銀傘」につきましても、当初懸念された銀傘が存在しない野球シーズンを発生させることなく、リニューアル工事を進めることができることとなりました。

リニューアル工事の工期短縮についての概要は、以下のとおりです。

1 主な変更点

(1) 球場本体の工期短縮（ 期分割工事から 期分割工事へ）

当初計画では、球場本体の工事を3期に分割し、3シーズンオフの期間にわたり実施する予定でしたが、銀傘の架設方法等の見直しにより、別棟の売店基地と外周を除く球場本体については概ね第 期で完成する予定です。

第 期：内野エリア（内野エリア工事の集中化）

第 期：アルプス・外野エリア、銀傘（銀傘工事の集中化）

売店基地建設と外周の整備は当初計画どおり平成22(2010)年シーズン前に完成する予定です。

(2) リニューアル工事期間中の「銀傘」維持

当初計画では、第 期に現在の銀傘を撤去後、第 期に新銀傘を設置する計画だったため、平成20(2008)年は、甲子園の代名詞の一つである銀傘をご覧いただけないシーズンとなる予定でしたが、第 期に既設銀傘の撤去と新銀傘の設置を同時に実施することにより、リニューアル期間中のいずれのシーズンも、銀傘を設置した状況を維持することができます。

これにより、銀傘の機能（雨・日除け）と球場内の景観を維持し、より快適に観戦していただけることとなります。

（３）内野観客席リニューアルの早期化

当初計画では、第 期に内野スタンド下諸室の補強・改装を実施し、第 期に内野観客席の改良を実施する予定でしたが、第 期に内野スタンド下諸室の補強・改装とともに、内野観客席改良も同時に実施することに変更します。

これにより、当初予定(平成 22(2010)年)より 2 シーズン早い平成 20(2008)年のシーズンから、より快適で便利に一新された内野観客席での観戦をお楽しみいただけることとなります。

２ リニューアル工事の予定

期間		新	旧
第 期	平成19(2007)年10月～ 平成20(2008)年3月	内野スタンド下諸室 補強改装 <u>内野観客席改良</u>	内野スタンド下諸室 補強改装 既設銀傘撤去
第 期	平成20(2008)年10月～ 平成21(2009)年3月	<u>既設銀傘撤去・新銀傘・スイート 席の設置</u> アルプスエリア及び外野エリアの 更新等	新銀傘・スイート席の設置 アルプスエリア及び外野エリアの 更新等
第 期	平成21(2009)年10月～ 平成22(2010)年3月	売店基地別棟建設・外周整備	内野観客席改良 売店基地別棟建設・外周整備

３ 投資額

約 2 0 0 億円（当初の計画より、変更なし）